

第1回 清瀬市地域市民センター再構築検討委員会会議 会議録

1 開催日時

令和7年7月23日(水)18時30分から20時30分まで

2 場所 清瀬市役所3階 会見室

3 会議内容

(1)開会

(2)挨拶

澁谷市長が挨拶を行った。

(3)委員の自己紹介

各委員が自己紹介を行った。

(4)資料確認並びに検討委員会の趣旨及び進め方について

事務局から資料確認及び検討委員会の趣旨及び進め方について説明を行った。

(5)委員長・副委員長選任

推薦により有村委員が委員長に決まった。

有村委員長からの指名により、粕谷委員が副委員長に決まった。

(6)委員会の公開について

事務局から委員会の公開について説明を行った。

委員の総意により本委員会が公開となることが決まった。

(7)地域市民センターの現状について

地域市民センターの現状について、事務局が説明を行った。

(8)子どもの居場所に関するニーズについて

子どもの居場所に関するニーズについて、事務局が説明を行った。

(9)意見交換(意見の順番通り記載)

・地域市民センターの特に図書館の跡地をどう活用するかという点では、市民参加の居場所の運営の形が望ましいのではないかと。職員がいて職員が子どもを見守るだけ

ではなく、市民が見守る。

- ・子ども食堂に対する関心が高い。子ども相手に遊ぶことは体力的に大変だが、おやつ作りや料理ならできるという方が多いという印象である。下宿など北部にないので、下宿地域市民センターは特に望ましいのではないかな。
 - ・子ども食堂のボランティアをやりたい方はたくさんいる。
 - ・ユニバーサルな居場所が必要ではないか。車いすの子どもや知的に障害があるような特別支援学校に通っている子だけが遊べるのではなく、障害のある子もない子も遊べるような場所があるとよい。車いすの子が遊べるような遊具も存在する。
 - ・六小地域には地域市民センターがない。そのため、学校を開放し、できることに力を入れている。実際に居場所を箱モノとして新たに作ることは物理的に難しいだろうが、各学校区域に歩いて行ける場所を提言されているのであれば、六小地域にも望む。
 - ・老人いこい家が六小地域にあり、非常に活用されている。PTA も掃除に参加することで、皆さんと交流したり、子どもたちも交流したりしている。
 - ・六小の子に聞くと野塩地域市民センターや竹丘地域市民センターを利用している。
 - ・子どもが安全安心で暮らせるのが一番と考えるので、市民一人ひとりが子どもを見守る、関われる機会を創出できる視点で考えていきたい。
 - ・下宿地域市民センターの児童館は狭い。一方で図書館跡地は広いので有効に活用していただきたい。
 - ・下宿地域市民センターに向かう道、特に第二野球場の方から向かうとなると、鬱蒼とした道を通る。遊びに行ける雰囲気がない。その環境の整備も併せて実施してもらいたい。
 - ・過去に実施された「公共施設利用促進検討委員会」のその後の進展も確認したい。全部つながっていると思う。2 時間単位などの予約を可能にしてはとの意見も出た。中高生が利用する場合も半額にすることで利用しやすくなるのではないかな。
- (事務局) 令和 5 年度に公共施設の利用促進検討会議においてご意見を頂いた。その提言を受けてどのように具現化していくかを内部で検討していく中で、社会的背景から公共施設の利用促進と同時に子どもの居場所の観点も出てきた。公共施設の機能の再構築を検討するので、利用促進もしていかなければならない。その提言も今後ご提示させていただいて、その提言も踏まえながら検討させていただければと思う。
- ・ボランティアをやりたい市民参画の意見も出ていたので、複合的に考えていくのもよいのではないかな。
 - ・稼働率を上げることを目的とするのであれば調理室があつたりするとよいと思うが、同時に話してもよいのか。子どもの居場所と施設全体の話も議論してもよいのか。
- (事務局) 議論の前提としては、昨年度の提言を受けてご議論いただきたいので、公共施設を活用して子どもの居場所を作ろうという方針はある。しかし、下宿地域市民センターには児童館があるから、このままでいいというのか。図書館跡地の活用の面もあ

るので、そう考えたときに地域市民センターというのは、子どもたちの場所ではない。文化、体育の振興などの目的もある中で、そこにどのように児童館のような機能を追加していくのを議論いただきたいと思います。子どもにも大人にもよい場所になるよう検討していただきたい。

- ・会議室がたくさんあっても、利用していない時間も多い。稼働していない時間を別の用途で利用するなど検討できるのではないかな。

- ・既存の施設をそのまま利用するのか、工事などするのも含めた議論で良いか。(事務局) 工事可能かについては、この段階では申し上げられない。非現実的な議論をしても意味がないのではないかと思われるかもしれないが、可能な限り理想な姿をご議論いただけるとありがたい。

- ・稼働率を上げることが目的ではないが、ニーズに合ったものを作っていくと、副次的に稼働率も上がっていくのかと思う。様々なサービスがある中で地域市民センターが役割を果たしていくのが大事なポイント。

- ・単なる貸し館ではなくて、社会教育の施設となるとよい。ボランティア養成、サークル立ち上げのバックアップなど、最終的に市民が主体的に何かやれるようなきっかけづくりができる施設になるとよいと思う。

- ・コミュニティ・スクールを軸に学校施設を使用して市民が参画する方向があるが、それだけだと在籍している子どもが中心になってしまう。サークルづくりなど市民活動をバックアップする必要がある。調理室があると子どもから大人までの居場所になる。

- ・下宿地域市民センターにサロンができたが、あまり人がいない。目的がないといかない。

- ・ころぼっくるに夜間に訪れた際に、一人学習室で勉強していた。夜間に利用できることを高校生がもっと知っていれば利用するのではないかな。

- ・場所をどうするかもそうだが、どう伝えていくか、巻き込むかなどのノウハウも検討していかなければならない。

- ・少ない会議の中で、子どもの居場所を検討するのであれば、子どもの範囲を少し絞らないとまとめるのがむずかしいのではないかな。どこが重要で、どこが重要ではないと思うが、自分一人である程度、歩きや自転車で行ける子どもの居場所としてどのように活用できるかの方向性で検討してはどうか。

- ・各センター、それぞれ造りも違い、今後それぞれの地域での要望もあると思う。全ての地域にころぼっくるのような施設があればいいと思うが、それは難しい。そのような中で例えばだが、このセンターはこれに特化している、こっちはここに特化しているなど特色を出すことで、今日はここ、次はここという選択もできるのではないかな。

- ・上述の意見に賛成。下宿地域市民センターは高学年から中学生にかけて、健全育成の必要性を感じる。少しうるさくしても、少しやんちゃしても、大目に見られるような場所の必要性を感じる。竹丘は障害児の施設もあるので、障害のある子も一緒に遊べる

ような場所。野塩は、野塩団地もあるので、高齢者と子どもが交流できる居場所になるのではないかと。

・机上の論理だけではなく、例えば水道施設がなければ調理はできない。提言をしても話が進まなければもったいないので、この施設はこういうことができる、これができないということがわかると議論しやすい。

(事務局) 可能な範囲で用意させていただく。

・ボランティアでお手伝いしたい人はたくさんいるが、何をしたらいいかわからない人の方が多いと思う。

・中学生の子がいる親の意見。息子はバスケットをしに行くためにころぼっくるへ行き、勉強しに行くために竹丘地域市民センターへ行き、目的に応じて行っている。他の親と話すと、六小地域に勉強する場所がないのが現状。歩きや自転車で勉強がある場所はあるとよい。

・どのような時に子どもの居場所が必要か、中学年以降は自主性で自ら探すので、何をして過ごそうかなというときに選択肢があるよい。

・ボランティアをやりたくてもどこに行ってもなにをやればいいのか。リストがあったり、データベースがあったりするのかな。

(事務局) ボランティア・市民活動センターにおいて、ボランティアしたい方の相談、受付を行っている。

・学校はカバーされているか

(事務局) 小学校区単位で円卓会議を開催している。そこで、自由参加で情報共有している。

・学校を中心とした地域づくりは実際に行われている

・今回の議論の中で学校を使っていくことは議論の中で大きい。提言の中にも入れていくべきか。

(事務局) 運用面の中に入れていただきたい。

・運営の方法を、指定管理者に頼むのではなくて、集いの広場をピッコロやウィズアイがやっているように、いろんな団体が居場所を運営して、例えば曜日によって不登校の子の居場所にしたり、子どもの食堂にしたりする方が活性化するのではないかと。

・ボランティアは毎日難しくても、できる曜日でやれるのは良い案。

・過去に、下宿地域市民センターの視聴覚室、第三集会室が毎日のように空いていた。部屋が空いているのであれば、小さい子どもが遊べるようなマットを常設して運用するのがよいと感じた。

・居場所を提供、運営するとなったときに、誰がやるのか。ボランティアや善意に任せただけでの検討をするのか。子どもの意見にあるように大人がいてもいなくてもどちらでもいいのであれば、きちんとした場所がここにありますがと提示すべきであると思うし、体験をさせたいというのであれば、主体となって居場所を管理運営するとなると誰が

やるのか、そういった視点については、どのように検討するのか。

(委員長)そこまでセットで検討していくと、中々アイデアが出しにくい。最終的には提言で示していく。

・検討委員会の目的としては、自分で行ける場所をターゲットにして、様々な可能性を提言するという認識で良いか。

(委員長)具体的に図書館跡地において考えていく。ほかの地域についてもご意見を賜りたい。

(事務局)頂いた意見をまとめて、今後ポイントを絞って議論していただきまとめることができると思う。

・子どもの居場所コーディネーターという人を配置するのはどうか。その人が、曜日ごとに使う団体と利用する子どもの間を取り持つ人。あるいは、そのような団体を発掘する人。高齢者の分野の生活支援コーディネーターのような人がいるが、その子ども版。

・子どもの居場所を有償化してはいけないわけではない。例えば、立川まんがパークのような場所。アンケートにあるように自由度の高い場所に行きたいと思う。がちがち縛られているといきたくない。有料化も検討すれば可能性が広がるのではないか。